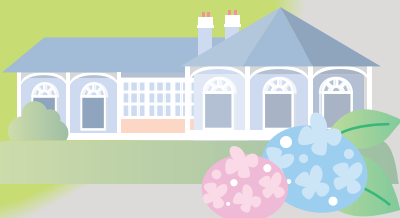
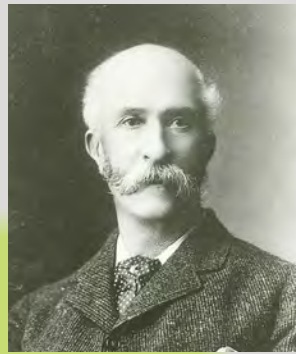


トーマス・グラバー

幕末の冒険商人

nagasaki topics



トーマス・グラバーは1838年、スコットランドで生まれました。青年になったグラバーはイギリスの貿易会社ジャーディン・マセソン商会に入社し、1859（安政6）年、21歳で開港した長崎にやってきました。

長崎に来たグラバーは20歳前半の若さで、ジャーディン・マセソン商会の仕事を担うことになり、1862（文久2）年に大浦にグラバー商会を設立しました。

グラバー商会では生糸を輸入し、西南諸藩の求めに応じて布類や香辛料、鉄材などのほか、中古の蒸気船や武器を輸入品として扱いました。長崎のイギリス領事の報告書には、グラバーは日本語が上手で、日本人とも親しく、尊敬もされていると記されています。来崎して間もない若い外国人が日本人と商売の取引ができたのは、日ごろから日本人との交流があったからと考えられています。

グラバーが行ったことの1つに、蒸気機関を日本に紹介したことが挙げられます。1865（慶応元）年、グラバーは大浦海岸通り（現・長崎みなとメディカルセンター前）に数百メートル線路を敷き、日本で初めて小型の蒸気機関車の公開運転を行いました。そのほか、薩摩藩の五代友厚ごたいともあつや小松帯刀こまつたてわきと共に、蒸気機関の力で大型船を陸に引き上げる修船場を、小菅に建設したり（小菅修船場）、高島で佐賀藩と共同で蒸気機関

を導入した西洋式炭坑（高島炭坑）を開発したりしました。

また、グラバーは日本に西洋の技術を導入するほか、海外留学を目指す日本人たちも援助しました。1865（慶応元）年、薩摩藩より五代友厚を含めた19名の日本人がイギリス留学のため密航しました。この当時、日本人が海外に出ることは禁止されていましたが、海外で学ぼうとする日本人たちをグラバーは助け、19名はグラバーが手配した船に乗りイギリスへ向かいました。留学から戻った彼らは明治期の日本で活躍しました。

41歳の頃、グラバーは三菱の顧問となり、徐々に活動拠点が長崎から中央へ移ります。横浜では現在のキリンビール株式会社の前身会社となる「ジャパン・ブルワリー・カンパニー」の設立、大阪では「大阪造幣局」の設立にたずさわりました。

グラバーは、晩年になっても東京の自邸から三菱の会社に出勤し、会社のイベントや行事に出席しました。また71歳の時、明治の日本の近代化に貢献をしたことが認められ、明治政府より勲二等旭日重光章を授与されました。

1911（明治44）年、グラバーは73歳で死去しました。グラバーの葬儀は東京と長崎で行われ、どちらも国内外から多くの人々が出席し、彼の死を悼みました。

現在、旧グラバー住宅は日本に残る最も古い木造洋風建築であり、国の重要文化財にも指定されています。また2015年にはグラバーが導入した西洋技術の施設（小菅修船場、高島炭坑）及び旧グラバー住宅が、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼・造船・石炭産業」の構成資産となりました。グラバーの功績は、旧グラバー住宅の世界遺産登録により、世界中の人々に伝わっています。

（写真・資料提供：グラバー園）